

随 筆

私のウォーキング

佐々木 教祐

1. 初めは「さわやかウォーキング」

大学を退職して10年になったのを機会に私のウォーキングについて振り返ってみたい。私は刈谷市に住んでいるので大学に在籍していた時は通勤も含めて適度な運動をしていたが、退職したら体を動かすことが少なくなった。そこでウォーキングを始めてみようと思いついた。まず、JR 東海の主催する「さわやかウォーキング」に参加することから始めた。「さわやかウォーキング」は、土日、祝日に開催され、駅からスタートし、事前の申し込み不要で、施設への入館などを伴う場合を除き、費用は無料である。歩くコースは、春は桜、新緑、イベントに合わせたコース、秋は紅葉やお祭りなどに合わせたコースなどが組み立てられ、10km くらいを楽しんで歩ける設定になっている。参加者は一人で歩く人も多いが、家族、会社の仲間などいろいろな人が自分のペースで歩いている。最近の秋コースでは、「紅葉彩る竜吟の滝と中山道・大湫宿を訪ねて」、「中山道・柏原宿と紅葉の徳源院をたずねて」などが用意されており、参加者は数百人と多いので道を間違えずに楽しんで歩くことができるし、参加者には参加カードが配られ、参加証明のスタンプを集めるとスタンプ数に応じてウォーキンググッズがプレゼントされるなどの特典もあり何回も参加したくなるような仕組みも用意されている。街中のウォーキングは名前は知っているが行ったことがない道や場所をじかに見られるし、郊外では美しい自然を楽しみながら歩ける。珍しい所では、飯田線の田本駅発というのがあり、この駅が「秘境駅」と呼ばれていることを初めて知った。秘境駅とは「鉄道路線と集落までの間に距離がある」「昔は集落があったが消滅した」「駅に一切車道が通じていない」などの理由によって、人家のほとんどない地帯に存在する駅のことを指すらしい。飯田線には、「小和田」「中井侍」「為栗」「田本」「金野」「千代」という6駅が「秘境駅」の上位にあり、これらの駅を1日で回る急行「飯田線秘境駅号」も運転されている。また、さわやかウォーキングのホームページ¹⁾には、コースマップが載っているので、当日に都合が悪くて参加できなくて後でそのマップを参考にして歩いたこともあった。JR 以外にも名鉄、近鉄、名古屋の地

下鉄なども様々な企画をしてウォーキングに誘っている。私は、最初の年は二十回ほど家から近いコースを中心に参加し、次の年は少し遠くても興味のあるコースに参加した。3、4年も参加しているとどうしても重複することが多くなり、参加回数も減っていった。

2. 豊田安城サイクリングロード

近くで楽しんで歩ける場所はないかと調べてみると、豊田安城サイクリングロード²⁾が近くにあるのを見つけた。豊田市から安城市に至る36.3kmの大規模自転車道で、枝下(しだれ)・明治用水路の水路沿いに、あるいは暗渠化された水路上を利用して整備されている。明治用水は、矢作川から分水し、西三河南西部に農業用、工業用の水を供給する用水で、「豊田安城自転車道」は本流と東井筋に沿っている。幕末・明治初期に、全国に先駆けて測量・開削が行われた近代農業用水だったため、明治という元号を冠した命名がされた。私も小学校のころ、安城市が「日本デンマーク」と呼ばれていることを習った記憶がある。安城市はかつては荒地だったが、明治用水ができてから急速に農業と畜産が発展した。そのため酪農も盛んで、酪農と農業のバランスがよく風土も共通しているデンマークにあやかって付けられた名前ようです。

明治用水開削の苦勞³⁾をたどってみると、江戸時代、安城市付近は広大な大地が広がる、「安城が原」「五ヶ野が原」と呼ばれるやせ地で、わずかに流れる小河川沿いに小規模な水田が開発されていたが、水に恵まれない土地だった。そのため、台地上の耕地の半分以上がため池に依存しており、水が足りず農民同士の争いが起こることもしばしばだった。用水が計画されたのは江戸時代末期で、和泉村



明治用水流路図

(現在の安城市和泉町)の豪農、都築弥厚は、矢作川上流の越戸村(現在の豊田市)から水を引き、30キロメートルにも及ぶ水路による用水を計画した。高棚村(現在の安城市高棚町)の数学者、石川喜平の協力を得て測量を始めたが、水害や入会地の減少を心配する農民たちに妨害され、作業はなかなか進まなかった。5年の歳月をかけ測量図が完成し、幕府から一部の開発許可が下りたが弥厚は病没し、計画は挫折してしまった。

弥厚の死後、明治時代に石井新田(現在の安城市石井町)の岡本兵松によって引き継がれ、明治5年に愛知県が成立し、同時期に矢作川右岸低地の排水と台地のかんがい計画を出願していた伊豫田与八郎の計画と一本化することでようやく許可を得ることができた。そして明治13年、ついに「明治用水」が完成した。明治用水完成後の農業の発展は目ざましいもので、約2000ヘクタールだった水田面積が明治40年には8000ヘクタールを超す一大穀倉地帯へと画期的な転身を遂げた。

明治用水と旧東海道が交わる所にある明治川神社には水に由縁の深い神、三柱と明治用水完成に尽力した都築、岡本、伊豫田の3人と枝下用水の開削事業を私財を投じて完成させた西沢真蔵が合祀されている。

現在、明治用水は東井筋のほかに安城から高浜に続く中井筋、三連水車のある本流から分かれて刈谷につながる西井筋があり、それぞれに沿ったサイクリングロードが作られています。これらの道は自転車だけでなく、ランニングをする人や散策をする人をたくさん見かけます。特に明治用水の取り入れ口にある水源公園、三河安城付近の中井筋、一号線を越えたところから明治川神社の間の桜は美しく、花見の名所となっており、私も毎年ウォーキングに出かけて花見をしています。

これらのサイクリングロード沿いには、JR線、名鉄線、愛知環状鉄道などが利用できるの自分の体力にあった距離を歩くことができるメリットもあります。矢作川の水源地から安城市役所の側を通り碧海台地を流れて河口近くの矢作川にそそぐ東井筋の取水口からの高低差は25m、三河安城駅の下を通り高浜の海に流れる中井筋の高低差は28mを素朴な測量器を使って流路を決めていった石川喜平の苦労を歩いて周りの地形を眺めながら思い抱き今日の発展を偲んでみるのも楽しみの一つでしょう。

3. 河川を歩く

次のウォーキングコースに選んだのは川である。刈谷の近くを流れる大きな川は、日吉丸で有名な矢作川と尾張と三河の境を流れる境川がある。その間に

は逢妻川、猿渡川、稗田川、油が淵に流れ込む長田川、半場川があり、さらに鹿乗川が流れている。川の堤は自動車にも邪魔されず歩くことができ、春にはすみれ、タンポポなどの花が楽しめるのでウォーキングには最適である。最近では自治体が遊歩道として積極的に整備を進めているので舗装されている堤もある。しかし、夏になると草が生い茂り歩けないところも出てくる。そのようなところは秋から春にかけてがお勧めである。特に境川は遊歩道が整備され、河川敷に遊具なども設置され楽しめる川になっている。最近では、川に鯉が放流されている所も多く、それらを見ながら歩くのも癒される思いがする。

4. 山を歩く

年をとると長距離のウォーキングは難しく、普通の道では20～25kmが限界で、山道になると15～20kmと距離が短くなる。私は登りが苦手なの休み休み登っている。登りやすいコースとしては、名電赤坂駅から持統上皇が三河巡行の際に立ち寄ったといわれる宮路山に登ると眼下に三河湾が眺められ、蒲郡の後ろにそびえる五井山までも楽に歩くことができる、本宿駅からバスで「くらがり溪谷」まで行き、傾斜のゆるやかな林道で本宮山に登り、飯田線の長沢駅まで歩く、豊田市駅からバスで猿投神社に行き、猿投山の頂上を通過して瀬戸へ下りる道、それに続く東海自然歩道も歩きやすい道である。最近ではコミュニティバスを多くの自治体が運行しており、ネットで調べて自分の歩くコースで利用するのもウォーキングの範囲を広げる大きな助けになる。

参考資料

1. さわやかウォーキング
<http://walking.jr-central.co.jp/index.html>
2. 豊田安城サイクリングロード
<http://www.pref.aichi.jp/douroi/bicycle/anjyou/index.html>
3. 安城のうつりかわり
<http://www.library.city.anjo.aichi.jp/kyoudo/kyoudo42.html>

(名古屋大学名誉教授)